

令和3年度第2回寝屋川市地域保健審議会

令和3年12月14日（火）午後2時
寝屋川市保健所2階 特別会議室

次 第

- 1 特定健診の取組について (資料 P7～11)
- 2 各種検診の受診率向上について (資料 P12～15)
- 3 結核対策について (資料 P4～6)
- 4 狂犬病予防集合注射について (資料 P1～3)
- 5 健康づくりについてのアンケート調査の主な結果（報告）

議題1 狂犬病予防集合注射について

1 現状

- (1) 狂犬病予防法では、犬の所有者に対して、毎年飼い犬に狂犬病予防注射を接種させることが義務付けられている。
- (2) 市では、市民の利便性を考慮し、例年4月に市獣医師会の協力により、集合注射（7日間）を実施している。
- (3) 接種率は毎年6割前後で推移しており、第五次寝屋川市総合計画において定めた令和2年度の最終目標値を達成することができなかった。
〔令和2年度実績〕 60.8%
〔最終目標値〕 76.0%

2 課題

- (1) 狂犬病予防注射の接種率が過去から横ばいとなっており、接種率向上に向けた取組を検討・実施していく必要がある。
- (2) 令和2年度の集合注射は緊急事態宣言により期間途中で中止したが、年間の接種率は例年と変わらないため、実施の有効性について検討していく必要がある。
- (3) 集合注射は、市獣医師会の動物病院から獣医師を派遣して行っているため、その時間は、担当動物病院（獣医師）は休業し、業務を逼迫していることから、規模縮小又は廃止の要望が出ている。
- (4) 例年会場内では犬同士の喧嘩や、首輪が外れて逃げ出す犬等、他の飼い主に迷惑を及ぼすこともあることから、利便性の反面、職員及び獣医師が安全面を確保するため慎重に対応しなければならない。

3 市の対策案

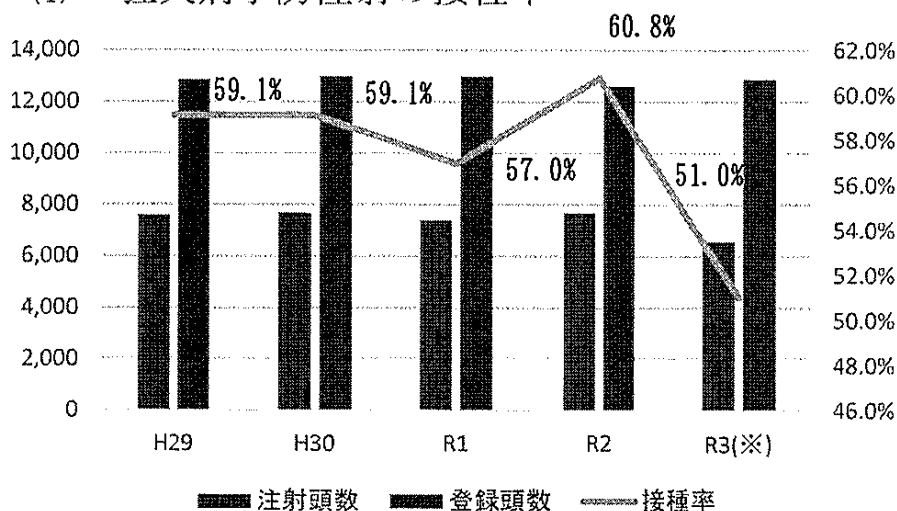
- (1) 集合注射の日時及び必要性を、飼い犬登録者へ市広報誌で啓発を行う。
- (2) 高齢犬の飼い主へ電話し、飼い犬登録の実態を精査（既に死亡したが、届出していない等を確認）することで、登録件数の実態を反映した予防注射の接種率を算出する。

4 諮問内容

- 以下の項目についてご意見くださいますようお願いいたします。
- (1) 狂犬病予防注射に係る接種率向上の効果的な手法について
 - (2) 集合注射について、
 - ア コロナ禍における令和4年度の実施の要否について
 - イ 今後の実施の必要性について

議題1 狂犬病予防集合注射について

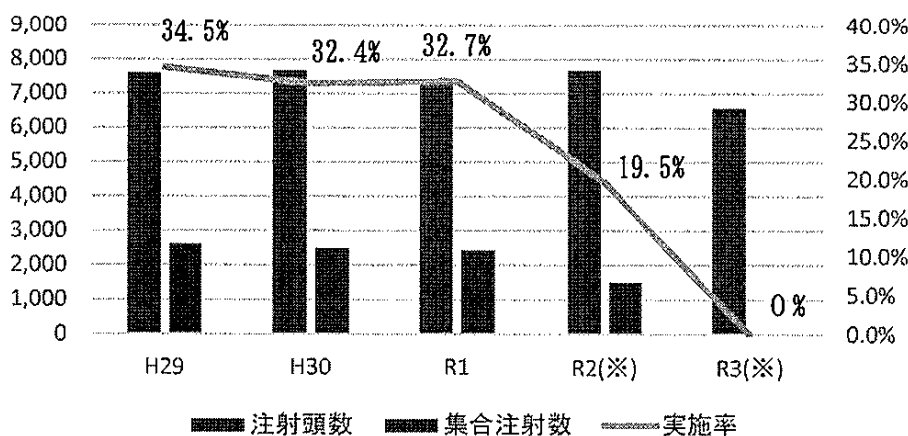
(1) 狂犬病予防注射の接種率



※令和3年度においては、令和3年10月末時点の件数を計上。

	H29	H30	R1	R2	R3(※)
注射頭数	7,585	7,675	7,389	7,661	6,564
登録頭数	12,850	12,987	12,971	12,608	12,861
接種率	59.1%	59.1%	57.0%	60.8%	51.0%

(2) 狂犬病予防集合注射の実施率



※令和2年度においては、緊急事態宣言により期間途中で中止したため、全48回のうち全34回のみ実施。

※令和3年度においては、令和3年10月末時点の件数を計上。

	H29	H30	R1	R2(※)	R3(※)
集合注射数	2,617	2,487	2,418	1,496	0
注射頭数	7,585	7,675	7,389	7,661	6,564
実施率	34.5%	32.4%	32.7%	19.5%	0.0%

議題 2 結核対策について

1 現状

本市の結核の罹患率（人口 10 万人あたりの数）は、令和元年は、寝屋川市は 16.5、令和 2 年は 13.1^{*}と推移している。大阪府の罹患率は全国ワースト 1 位であるが、大阪府（18 保健所）の中でも 9 番目に高い。また、新登録結核患者の 75 歳以上の割合は、70%と高くなっている。

※令和 2 年の罹患率低下の理由として、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどが考えられる。

【現在の取り組み】

- (1) 介護サービス事業者等（入所施設・通所系サービス・訪問系サービスなど）への啓発
- (2) 後期高齢者に対する早期発見・早期受診を目的としたチラシの送付
- (3) 広報誌・SNS などの媒体による結核に関する啓発

2 課題

- (1) 罹患率の減少を目指して、様々な取組を実施しているが、その効果は限定的であり、発見の遅れがあった塗抹陽性患者（感染性があり入院が必要な方）が一定数いる。
- (2) 高齢者では、健診の長期未受診者が多い。
- (3) 新登録結核患者の中には、有症状であっても受診しなかったことや定期的な胸部レントゲン撮影が未受診であったことにより発見が遅れた患者もいるため、早期発見・早期受診に向け、より効果的な施策の実施が必要である。

3 市の対策案

高齢者の結核の早期発見に向け、現在の取り組みに加え、自治会での啓発チラシの回覧による啓発を検討しています。

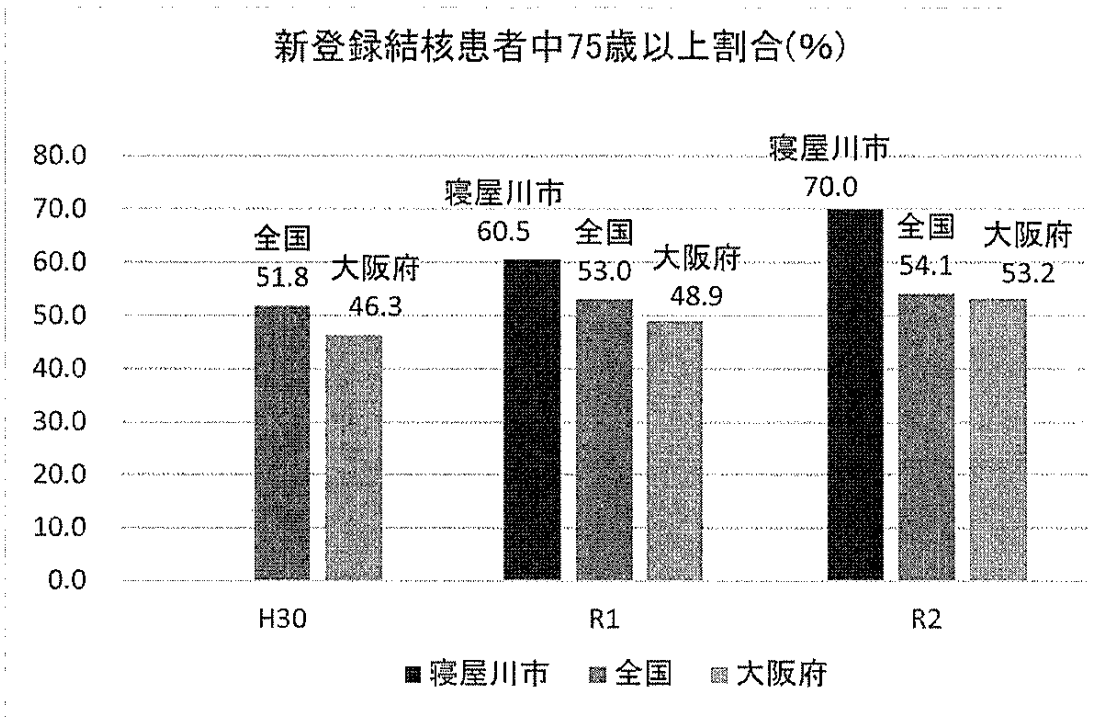
4 諮問内容

自治会での啓発チラシの回覧による啓発について、効果的な取組とするためのご意見をいただくとともに、その他の取組の改善点等について、ご意見くださいますようお願いいたします。

議題2 結核対策について

新登録結核患者中
75歳以上割合 (%)

	H30	R1	R2
寝屋川市		60.5	70.0
全国	51.8	53.0	54.1
大阪府	46.3	48.9	53.2



議題3 特定健診の取組について

1 現状

本市の特定健診受診率、特定保健指導実施率は、第2期データヘルス計画において定めている目標値とは大きく乖離している状況である。

[目標値]

特定健診受診率：60%、特定保健指導実施率：60%

[現状値]

特定健診受診率：34.8%、特定保健指導実施率：18.3%

令和2年度は新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響もあり、特定健診の受診率が低下した。特定保健指導においては、緊急事態宣言期間中は個別面談が実施できなかったこともあり、指導率が大きく低下した。

2 課題

特定健診の受診率向上に向け、AIによる分析から対象者に合わせた受診勧奨はがきを送付しており、令和3年度は、40～50歳代の若い世代にターゲットを絞った送付も行っている。

また、商工関係部局や大阪府が連携協定を締結している生命保険会社の協力も得て、啓発資料を配布するなど、様々な工夫・取組を進めている。

しかしながら、新型コロナによる健診の中止や受診控えなどの影響もあり、特定健診の受診率は大きく変化していない。引き続き、若年層や不定期受診者への勧奨など、受診率向上に向けた取組を検討・実施していく必要がある。

3 市の対策案

- (1) 未受診者、不定期受診者を継続受診につなげるように、AIによる受診勧奨はがきを活用し、ターゲットの絞り方やはがき以外の方法についても検討する。
- (2) 大阪府のアンケート結果では、かかりつけ医からの声かけで健診受診を決める方が多かったとあったことから、令和3年度は、かかりつけ医から健診受診を案内していただくようチラシを作成し、実施医療機関に配布した。引き続き、市医師会とも連携し、かかりつけ医から健診受診勧奨を行っていただく取組について検討・強化する。

4 諮問内容

- 以下の項目についてご意見くださいますようお願いいたします。
- (1) 特定健診受診率及び特定保健指導実施率の向上に向けた効果的な勧奨の方法について
 - (2) 特定健診の受診勧奨のターゲットを絞る際の考え方について
 - (3) かかりつけ医からの受診勧奨を行いやすい方法について

議題3 特定健診の取組について

1 特定健診の市での取組と実態

(1) データヘルス計画の説明と市の実情

① データヘルス計画の概要

寝屋川市では、国民健康保険被保険者に対し、糖尿病を始めとする生活習慣病対策や重症化予防等の事業を実施するとともに、それらの事業の評価を行っている。

健診結果やレセプト情報を分析し、実情に応じた健康課題・目標を明確にした上で、効果的な保健事業を実施するため、寝屋川市第2期国民健康保険事業実施計画（データヘルス計画）を策定し、「健康寿命の延伸」及び「健康格差の縮小」の実現、また、「医療費の適正化」を目指している。

② 市の実情（健康課題）

ア 特定健診

- ・健診受診率が横ばいである。
- ・40歳代の受診率が低い。
- ・健診も医療機関も未受診の者が27%。
- ・単年度受診者が多い。

イ 特定保健指導

- ・実施率は上昇傾向であるが、目標値には大きく乖離している。
- ・メタボリックシンドローム該当者が大阪府平均より高い。

ウ 脳血管疾患

- ・医療費総額、高額レセプトが横ばいである。
- ・65歳未満の発症で要介護状態になり、介護保険を利用している者が多い。

エ 虚血性心疾患

- ・標準化死亡比での心臓病の死亡比が男女ともに高い。
- ・レセプト件数が増加している。
- ・40～50歳代の件数が全国や大阪府と比べて多い。

オ 人工透析

- ・医療費が全国や大阪府と比べて高い。
- ・総額医療費に占める割合も高い。
- ・レセプト件数がどの年代においても多い。
- ・透析患者はどの年代においても50%以上糖尿病のレセプトがある。
- ・第2期データヘルス計画の中間評価において、新規透析患者の3分の2が健診未受診者であった。

カ 高血圧

- ・Ⅱ度高血圧以上の未治療者は全体の約2%。

キ 糖尿病

- ・糖尿病域の未治療者は全体の約3%。

③ 現状

	特定健診受診率	特定保健指導実施率
平成28年度	36.5%	21.4%
平成29年度	36.8%	23.9%
平成30年度	35.5%	25.4%
令和元年度	36.1%	30.4%
令和2年度	34.8%	18.3%
目標値	60%	60%

計画の進捗についての検証

第2期データヘルス計画は、平成30年度から令和5年度までの6か年計画で策定されており、令和2年度は中間評価を行った。

中間評価は、大阪府国民健康保険団体連合会の「保健事業支援・評価委員会ワーキングチームによる検討会」及び地域連携協定に基づき実施している「特定保健指導、重症化予防事業に関する事例検討会」から助言を受け、実施した。

分析の結果、新規人工透析患者の約3分の2は過去に市の特定健診を一度も受診していないことが分かり、受診勧奨の重要性を再確認したことから、引き続き、特定健診の受診率向上に向けた取組を

強化する必要がある。

また、新規人工透析患者の原因疾患内訳を分析すると、高血圧と糖尿病が多い状況であったことから、これらの疾患の未治療者を医療へつなげるため、特定保健指導、重症化予防事業の未利用者への支援を強化する必要がある。

これらを実現するためには、かかりつけ医や専門医との連携が重要となることから、「健診情報連絡票」の活用や市内医療従事者向けの研修会等を実施し、連携を深めていく必要がある。

(2) 次年度の取組

① 特定健診受診率の向上に向けた取組

- ・ 受診啓発ポスター、リーフレットの作成（継続）
- ・ AIによる受診勧奨はがきの送付（継続）

※AIを活用した未受診者対策に対する受診勧奨は、令和元年度から開始した事業であるが、以下の影響により事業の効果を十分に検証できていない状況である。

- ・ 令和2年2月後半から3月末まで特定健診の実施を中止
- ・ 令和2年度の健診開始時期を1か月延期（6月→7月開始）
- ・ 令和3年度は半年に渡り、緊急事態宣言やまん延防止措置等が発出された影響で、医療機関の受診控え等もあったことから、令和4年度も引き続き実施する中で、事業の効果を検証したいと考えている。

② 特定保健指導実施率の向上

- ・ 特定保健指導の外部委託（継続）
- ・ 特定保健指導のハイリスク者に対し、市保健師、管理栄養士が訪問、面談、電話等にて支援し、医療の受診へつなぐ（継続）

③ 重症化予防事業の強化

- ・ 重症化予防事業の一部外部委託（新規）
- ・ 重症化予防事業の未利用者、ハイリスク者に対し、市保健師、管理栄養士が訪問、面談、電話等にて支援し、医療の受診へつなぐ（新規）

議題 4 各種検診の受診率向上について

1 現状

本市の各種がん検診の受診率は、大阪府下で下位に位置付けられる。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、集団検診を中止していた期間があったが、令和元年度に比べて、肺がん検診、大腸がん検診、乳がん検診及び子宮がん検診の受診率は増加した。一方、胃がん検診の受診率は減少した。

※ 対象者は国民健康保険の被保険者

2 課題

受診率の向上を目指して、様々な取組を実施してきたが、その効果は限定的であり、大きな受診率の向上には至っていない。

受診率向上に向けた有効な施策の検討が課題である。

3 市の対策案

- (1) 5大がん全てにおいて個別医療機関での受診が可能となったため、市民への周知を強化する。
- (2) 集団検診の休日検診や出張検診を拡充し、市民の利便性向上を図る。
- (3) 検診の受診者を分析し、対象世代を明確にした受診勧奨を実施する。

4 諮問内容

検診受診率の向上に向け、効果的な取組についてご教示いただくとともに、引き続き実施する取組の改善点等についてご意見くださいますようお願いいたします。

議題4 各種検診の受診率向上について

1 各種検診受診率向上の取り組みについて

(1) 受診率

	健康増進計画 策定時（H28）	令和2年度	健康増進計画 目標値（R4）
胃がん検診	2.36%	2.29%	3%
肺がん検診	2.99%	3.78%	4%
大腸がん検診	4.82%	4.43%	6%
乳がん検診 （マンモグラフィ検査）	4.16%	5.59%	6%
子宮頸がん検診	5.22%	5.04%	7%

※受診率＝市のがん検診受診者数／対象年齢の全市民

<大阪府が発表した、過去2年間の府下市町村別の受診率順位>

	令和元年度		令和2年度	
	受診率	順位	受診率	順位
胃がん検診	8.6%	27位	8.3%	23位
肺がん検診	6.1%	38位	7.7%	30位
大腸がん検診	7.6%	41位	7.9%	37位
乳がん検診 （マンモグラフィ検査）	13.2%	36位	14.0%	29位
子宮頸がん検診	16.0%	27位	16.7%	20位

※ 対象者は国民健康保険の被保険者

(2) これまでの取組

- ① 個別検診の拡充 () 内は開始年度
子宮頸がん検診 (H5 以前)、大腸がん検診 (H23)、乳がん検診 (H30)
胃がん検診 (R1)、肺がん検診 (R2)
- ② がん検診推進事業の実施 () 内は開始年度
乳がん及び子宮頸がん検診の無料クーポン券送付 (H21～)
大腸がん検診の無料クーポン券送付 (H23～H27)
5大がんの個別受診勧奨実施 (H28～)
- ③ セット検診の実施
平成 29 年度から集団検診において、がん検診と特定健診を同日に受診できるセット検診を実施。
- ④ 個別受診勧奨の実施
平成 29 年度から特定健診の案内時にかん検診受診申込ハガキを同封。
- ⑤ 休日乳がん検診の実施
平成 24 年度から休日に乳がん検診 (集団検診) を年に 1 回実施。
- ⑥ 出張がん検診の実施
令和元年度にイオンモール四條畷において、肺がん検診を実施。
令和 2 年度にイオンモール四條畷において、乳がん検診を実施。
- ⑦ 検診予約サービスの導入
令和元年度からスマートフォンアプリによる、検診日の指定が可能な予約サービスを導入。

(3) 令和 3 年度の取組

- ① 個別検診の周知・啓発
 - ・令和 2 年度から、5大がん全てにおいて個別検診が実施可能となったため、個別検診取扱医療機関において、受診勧奨ポスターを掲示。
 - ・協会けんぽの受診勧奨チラシに寝屋川市の個別検診情報を掲載。(効果) 個別検診受診者数の増加

② 出張がん検診の実施

イオンモール四條畷において、乳がん検診を実施。

(効果) 新規受診者層の獲得

③ 乳がん検診受診率向上対策事業の開始

前年度に乳がん検診を受診していない 40 代の女性に対し、大型圧着ハガキによる個別受診勧奨を実施。

(効果) 40 代の乳がん検診受診者数の増加

④ 休日乳がん検診実施回数の増加

令和 2 年度までは、年に 1 回実施していた休日乳がん検診を年に 2 回実施。

(効果) 受診機会増に伴う、受診者数の増加

(4) 令和 4 年度以降の取組予定

令和 3 年度 of 取組に加え、以下の取組を実施予定。

① 医療機関における個別検診受診勧奨チラシの配布

複数のがん検診が受診できる個別検診の実施医療機関に対し、複数のがん検診をまとめて受診できる旨のチラシを配布。

② 5 年前受診者へのがん検診受診勧奨チラシの配布

H29 年度 (5 年前) に初めてがん検診を受診し、以降受診していない方に対し、検診受診勧奨チラシを配布。

■「健康づくりについてのアンケート調査」の主な結果（速報値）

1 調査方法と回収状況

（1）調査方法と回収状況

- ・「(仮称)第二次寝屋川市健康増進計画」の策定に向けた基礎調査。
- ・18歳以上の市民 3,000人（無作為抽出）を対象。

	今回調査	前回調査
調査方法	郵送法・WEB回答システムを併用 (対象者全員に催告1回)	郵送法(対象者全員に催告2回)
調査期間	令和3(2021)年7月30日から8月20日	平成29(2017)年10月～11月
回収状況	有効回答数 1,334件 有効回答率 44.5%	有効回答数 1,513件 有効回答率 50.4%

（2）回答者の主な属性

	今回調査	前回調査
性別	男性 36.7% 女性 48.7% その他 0.1% 無回答 14.5%	男性 41.5% 女性 57.4% 無回答 1.1%
年齢	18～39歳 15.7% 40～64歳 39.0% 65歳以上 44.2% 無回答 1.1%	18～39歳 18.4% 40～64歳 36.7% 65歳以上 43.6% 無回答 1.4%

2 主な調査結果

（1）健康づくりについて

	今回調査	前回調査
健康状態	自分は健康だと思う 73.4% (健康 17.3%+まあまあ 56.1%)	自分は健康だと思う 79.2% (健康 19.8%+まあまあ 59.4%)
病気の状況	何らかの病気を治療した経験がある 54.3%	
体格指数(BMI)	30～70歳代男性：肥満 33.8% 80歳以上女性：やせ 27.3%	

（2）食生活と食育について

	今回調査	前回調査
健康の維持のために行っていること	食事に気を付ける 57.8% (60歳以上女性 73.7%)	
ふだんの食事について	1日3食食べる 67.4% 野菜をしっかりと食べる 44.2% 間食や夜食を控える 33.1% 栄養のバランスを考えて食べる 32.8%	

	今回調査	前回調査
ふだんの食事について (続き)	味付けの濃い料理を控える 32.2% 油の多い料理を控える 26.8% よく噛んで食べる 19.5% 栄養成分表示やアレルギー表示を確認する 8.3%	
朝食の欠食率	欠食率(朝食を食べない) 男性 14.3% (18~39歳 19.3%) 女性 6.9% (18~39歳 14.4%) ----- 欠食の理由(朝食を食べないのみ) 朝食・昼食兼用で食べる 35.8%	
栄養バランスを考えた食事	1日のうち主食・主菜・副菜の揃った食事をとる回数 2回 42.8% 3回 27.3% 1回 21.7%	

(3) たばことアルコール(お酒)について

	今回調査	前回調査
成人の喫煙率	男性 26.3% 女性 7.7%	男性 23.7% 女性 8.4%
自分の喫煙について	やめたい・本数を減らしたい 男性 61.4% 女性 83.7%	
受動喫煙にさらされる機会	日常的に何らかの場所で受動喫煙にさらされる機会がある 37.0%	
飲酒の状況	週5日以上飲酒する 男性 32.7% 女性 11.9% ----- 生活習慣病のリスクを高める量*を飲酒 男性 26.2% 女性 24.7%	週5日以上飲酒する 男性 38.2% 女性 11.3% ----- 生活習慣病のリスクを高める量*を飲酒(再計算値) 男性 22.1% 女性 23.8%

*生活習慣病のリスクを高める飲酒量：1日あたりの純アルコール摂取量が男性40グラム、女性20グラム

(4) 身体活動・運動について

	今回調査	前回調査
運動習慣の状況	運動習慣*がある 男性 38.7% 女性 32.5%	運動習慣*がある 男性 36.9% 女性 31.2%
運動不足感	自分がかかり運動不足と感じている 男性 40.8% 女性 44.6%	

*運動習慣：1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上継続している

(5) こころの健康について

	今回調査	前回調査
睡眠による休養の状況	普段の睡眠で休養がとれている 74.3% (十分 23.8%+まあまあ 50.5%)	普段の睡眠で休養がとれている 74.5% (十分 19.1%+まあまあ 55.4%)

	今回調査	前回調査
ストレスの状況	ストレスを感じている 26.9% (いつも感じている 8.5%+感じる時が多い 18.4%)	ストレスを感じている 29.9% (いつも感じている 8.7%+感じる時が多い 21.2%)
	ストレスを解消できていない 39.3% (解消できていない 8.4%+解消できないことが多い 30.9%)	
	ストレスについて相談できる相手がいる 男性 56.7% 女性 75.6%	ストレスについて相談できる相手がいる 男性 58.9% 女性 76.8%
気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている人の割合	K6*合計点10点以上 男性 9.8% 女性 14.1% (18~29歳 36.3%)	

* K6：心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標

(6) 歯の健康について

	今回調査	前回調査
歯の本数	80歳(75~84歳)で20本以上 34.1% 60歳(55~64歳)で24本以上 49.5%	
歯や歯肉の状況	歯や歯肉に何らかの症状がある 31.2% (30歳代男性 45.2% 40歳代男性 38.0%)	
歯と口の健康について取り組んでいること	歯みがきをしっかりしている 69.2% 歯間清掃補助具を使っている 41.2% 定期的に歯科検診・受診 39.4% 気になれば診てもらっている 28.7% 入れ歯の手入れを行っている 16.9%	歯みがきをしっかりしている 73.1% 歯間清掃補助具を使っている 36.2% 定期的に歯科検診・受診 33.2% 気になれば診てもらっている 29.7% 入れ歯の手入れを行っている 20.7%

(7) 健診・検診について

	今回調査	前回調査
健診・検診の受診状況	1年間で何らかの健診・検診を受けた 74.1% (男性 76.5% 女性 73.1%)	1年間で何らかの健診・検診を受けた 77.7% (男性 76.0% 女性 78.7%)
がん検診を受診しやすくするために必要なこと	手軽な費用で受診できる 62.5% 近くの場所で受診できる 53.6% 手軽に申し込みができる 46.0%	手軽な費用で受診できる 62.0% 近くの場所で受診できる 54.4% 手軽に申し込みができる 47.7%

(8) 新型コロナウイルス感染症について

	今回調査	
コロナウイルスの感染拡大により日々の暮らしで変わったこと	外出を控えたり、閉じこもりがちになった 69.1%	} 身体活動・運動面での影響を受けた人が多い
	運動する機会が減った 34.0%	
	体力が低下した 31.4%	
	体重が増えた 23.8%	

(以上)